

### ペンテコステの聖霊降臨

自動車がどんなに素晴らしい新車でも燃料がなければ走ることはできない。コンピューターもどんなに高性能の最新機種でも、そのコードが電源に接続されていなければ作動しない。教会も聖霊の力なしには存在しえない。マテイアを使徒団に補充して組織を整えた教会もキリストの証人としてこの世において働きを開始するためには、上りの聖霊の力に満たされる必要があった。そして、それが起ったのが五旬祭（ペンテコステ）の日であり、その時、実に驚くべき出来事が起ったことを、ルカはこう記している。

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した（2 :1? 4）。

その時を期して、恐れおののいていた弟子たちは、何物をも恐れない、熱烈なキリストの証人になった。天よりの力、聖霊のダイナミックな力に満たされて、彼らは大胆に福音を語り、全世界に出て行った。ペンテコステの出来事は、そのような弟子たちの変革、それにもとずくエルサレムから始まった信徒による一大運動が、単なる人間的な、下からのムーブメントではなく、上からの、聖霊によるムーブメントであることを示す出来事であった。

また、聖霊が弟子たちにくだった時、彼らはあらゆる国の言葉でキリストにおける「神の偉大な業」（2 :11）を語り出した。これは、キリストの福音の恵みが一族に限られるものではなく、全世界的な広がりをもった神の恩寵の業であり、ユダヤ人だけではなく、全世界の人々にも提供されている神の恵みであることを明らかにする出来事であった。言葉の分裂に象徴されている人間の罪の世界に、真の救いと統一（和解と一致）を与えるのはイエス・キリストの福音のこぼれ以外にほかにことをペンテコステの出来事は示している。

更にまた、ペンテコステの聖霊降臨によって引き起こされたダイナミックな働きは、福音の世界大の収穫を告げる預言的な出来事でもあった。ペンテコステは元来、「小麦の初穂をささげる刈り入れの祭」であった。初穂とは、やがてやって来る大収穫の前ぶれであり、しるしであり、保証を意味した。事実、聖霊によって変えられた弟子たちの大胆な証によってその日三千人もの人々が悔い改めて主に立ち返り、主の教会に加えられたのである（2 :41）。

それはやがて教会の宣教の働きを通して実現する、福音の世界大の大収穫の前ぶれであった。そしてペンテコステの日が始まった福音の大収穫の働きは、教会を通して今もなお続けられている。そして私たちもこのワシント

ンの地において、この聖霊の恵みと力にあずかり 聖霊のお働きの一端を担  
う使命が与えられているのである。